戦時下の大原美術館

赤　木　徹　志　さん

大原美術館での思い出である。現在と同じように正面に小さな木造の門があった。扉は開いたままである。当時は一日に，おそらく一人の入館者もない日があったのではなかろうか。

昼下がり，蝉(せみ)取りの網を持って中庭に入った遊び仲間が入り口をのぞく。中にはいつもなら，老婦人が入場料と引き換えにスリッパを渡しているはずだが，その日は誰もいない。一人が入りだすと，頭の黒いネズミ共は一列になって階段をあがった。はだしのまま両手にゴム草履を下げてゾロゾロと。

二階の広間に出ると，少しばかり日常とは違う雰囲気に，みな神妙(※1)にしてまわりの壁に取り付けられた額の絵を見廻(まわ)す。どの絵を見ても，学校の図画室にある絵とは全然違う。人物はみな外人ばかりである。

景色は書いてあるがボヤッとして霧に包まれた様な絵。桁外れに大きな絵。ああ，これが美術館か。一同キョトンとしたまま声はない。要するに，猫に小判ならず，ネズミ共に小判の１日であった。

当時，この美術館で特異な出来事があった。確か，ある夏の正午ごろのことである。爆音とともに東の空から鶴形山の上空に向かって飛行機が飛んで来た。見上げるとオレンジ色の機体で，軍の練習機であることはすぐわかった。〈通称赤トンボといわれた複葉(※2)機である〉

その飛行機の爆音が，鶴形山の中央付近で急にせき込みはじめ，音が止まると同時に機首を下げて急降下しながら機影が山の向こうに消えた。間違いない。飛行機の墜落だ。

私はトンネルを目指して走り，見当をつけた美術館あたりまで走ってきた。ふと見ると，美術館の中庭にある松の一本に白い落下傘(※3)が頂上あたりから下へダラリと垂れ下がっており，塀に隠れて下半分は見えない。恐らくは操縦士がその下にはいたのだろうがあまりに低い高度からの脱出で傘が十分開かなかったのではなかろうか。想像もしない悲痛なできごとであった。

驚いた事に，通用門では早くも駆けつけた憲兵が美術館への立ち入りを禁止していた。警官よりも早くである。色々な突発(※4)事件で，こんなに早い対応を私は見たことがない。それにしても，飛行機の機体は何処に落ちたのか。その後，うわさすら聞くことが無かった戦時下の情報(※5)統制のすごさである。

太平洋戦争の前，美観地区の掘割(※6)に木造の屋形(※7)船がつながれていた。

広島から，瀬戸内海を通り児島湾に入り，倉敷川の河口から遡上してきた船である。全長は２０ｍはあろうか結構大型の船で屋形のなかは料亭の造りである。毎年冬にやってくる牡蠣（かき）船だった。

中橋の上手で南側道路に寄せて停泊していた。乗り降りは，３０センチ幅のバタ板(※8)を渡ることになる。おそるおそる両親につれられて食事に入った記憶がある。いま考えてみても，この掘割には結構大型の船がはいってきていたものである。河口から倉敷川にはたくさんの橋があるが，これを通過するために船は帆柱を倒して入ってきた。大型の船が入れたのは，川底も昔のほうが深かったのではないかと思う。

倉紡工場に原綿を運ぶ通路の川岸には，石段と傾斜でできた荷上場があった。船で運ばれた原綿(※9)は，長さが１メートル程度で断面が５０センチ角の麻布（ドンゴロス）で巻かれ，鉄のバンドが両側にはまっていた。

重そうな塊である。これを船にある起重機(※10)のマストで釣り上げて，傾斜場で待つ大八車(※11)の荷台に下ろす。

３～４個積み込むと，背丈は低いが筋力はけた外れの仲仕(なかし)(※12)が，ガラガラと音をたてて引き始める。斜面を上がるまでは荷台の後ろから仲間が押す。石畳は真っ直ぐ倉紡工場の門内まで続いている。いまでもこの道路には荷車に合わせたレール型に石が敷き詰められたまま残っているのが見られる。

この界隈(かいわい)(※13)で，いまでも記憶にあるのは前神の交番である。橋の南西の隅にガラス戸の多い平屋の交番所があった。

日中戦争当時，南京が陥落(※14)したとき，夕方から提灯(※15)行列が開かれた。その行列の解散地点がこの交番前だったと記憶する。

スタートは駅前広場で，元町を通ったか，戎(えびす)町商店街を通ったかいずれにしても美術館前の掘割を通ってゾロゾロ進むことになる。

全員丸い提灯を提げ「南京陥落万歳」を叫びながら歩くのである。

南京がどこやら，陥落が何の意味やら分からないまま歩いた記憶があるが，考えてみれば８０年近くたった今，南京陥落の影に起こった虐殺(※16)事件が，いまだに論争の種になることを予測した大人は，当時誰ひとりいなかっただろう。

※1 神妙…普段とは違って，おとなしくすること。
※2 複葉機…上下に二葉以上の主翼を有する飛行機。
※3 落下傘…パラシュート。布製の大きな半球形の傘の空気抵抗により，人や物を安全に落下させる装置。
※4 突発…突然に起こること。
※5 情報統制…国家等の公権力が，出版物や言論を検査し，不都合と判断したものを取り締まる行為。
※6 掘割…地面を掘ってつくった水路。ほり。
※7 屋形船…家の形をした覆いを据え付けた船。
※8 バタ板…足場を作るために設置された板。
※9 原綿…紡績の原料として使用するため，綿繰り車にかけて種を取り去っただけの綿花。
※10 起重機…重量物を吊り上げて，水平または垂直方向へ移動させる機械。クレーン。
※11 大八車…荷物運搬用の二輪車で，２，３人で引く大型のもの。
※12 仲仕…港や河川で，船の貨物の上げ下ろし作業に従事する人。
※13 界隈…そのあたり一帯。付近。近辺。
※14 陥落…攻め落とされること。

※15 提灯行列…戦勝や各種の祝いごとなどの際に，祝意を表するために，夜間，たくさんの人々が火をともした提灯を持って，列を組んで街路をねり歩く行事。

※16 虐殺…むごたらしい方法で殺すこと。